

荘 花園 莊智裕

～MPSを活用して 一步先ゆく産地を目指します～

荘 花園(しょう はなえん)



品 目 : パラ 切花生産
 栽培方法 : アーチング栽培(水耕栽培)
 面 積 : 1400坪
 所 属 : JA北つくば花き部会
 出 荷 先 : 東日本板橋花卉(HIK)
 フラワー・オークション・ジャパン(FAJ)
 出荷方法 : ELFシステム

MPSを初めて知ったのは2003年の花業会サマーセミナーです。オランダでは環境に対する認証が始まりMPSは当たり前になっているとのことでした。その後、新聞等で日本でもMPSが始まるという記事が出ていたので、MPSについて調べ始めました。

色々と勉強をしていく中で、生産者にとっての環境対策はプラスになることが多いことに気がきました。農薬の削減は、残留農薬の問題、科学物質の削減、自分自身の健康被害の軽減することです。また、肥料の削減は連作障害や地下水汚染の軽減になります。そしてこれらを削減することで経費の削減にもつながります。



また、一方では花が売れない時代となり、花屋さんはもちろん市場でも売れないのはわかっていました。そこで何か切り札を持たせたいと考えており、MPSも使えるのではないかと考え始めました。

JA北つくば花き部会の総会時にHIKの方の「これからは環境にも配慮を・・・」との挨拶を聞き、今しかない！と思い、MPSに参加することを決めました。我が家の出荷は共選共販の為、参加するには多くの課題がありました。部会認証という話もありましたが、まだ検討段階でしたので個人での参加としました。

MPSに参加し始めた時、まずは自分の位置を知ろうと思い、今までの状態で登録しようと考えました。しかし、自分で環境認証に参加していることを意識してしまいます。今までは1000倍～2000倍の農薬なら、迷わず濃い1000倍で使用し、高い効果を狙っていました。ですが、環境認証に参加していることが頭をよぎり2000倍で散布している自分がいました。約1年、書類を提出し続け、6時間以上も掛る程の審査を受けましたが、A認証を頂きました。結果を見てみますと肥料とエネルギーがちょっと高めの数値が出ていました。これからの課題です。

この対策として、ヒートポンプの導入を検討しました。しかし、この地域では必ずしも有用とは言い切れず、今回は新しい高効率の加温機を導入しました。また小さいことですが、作業場の暖房に薪ストーブを使用しています。この薪は近所の大工さんから頂いている建築材料の廃材(木材)を利用しています。

また、水耕栽培ではどうしても排水が出ます。再利用する循環式も考えましたが、まだ技術が確立されていません。そこで現在、排水を利用したハロウィン用のカボチャに挑戦中です。肥料の再利用と、他には無い「MPSのカボチャ」と、一石二鳥です。考え方一つでMPSはいろいろな所で利用できるものです。



MPSに参加して、周辺の意識も変化してきました。JAも産地PRでMPSを積極的に利用してくれます。1人がMPS参加するだけでも周りが環境に配慮した生産を考え、行動に移したことはいい影響だと思えます。そして、私達は他の産地よりは一步先をいく産地となっていきましょう。

今、生産現場では花の価格低迷によりデフレスパイラルが起きている話をよく聞きます。MPSは生産者だけではなく市場、花屋まで使えるツールです。ぜひ、環境という新しい付加価値を利用して、価格を安定していけたらと思います。花卉業界の環境への取組みは社会からみれば小さなことかもしれませんが、しかし、1人では微力でも、2人3人と集まれば塵となり山となり「二酸化炭素25%削減」という大きな目標への力になると思っています。

